

くまがわ・明日の川づくり報告会 VOL.4 1

開催地：八代市太田郷校区

平成 19 年 10 月 24 日（水）、八代市太田郷校区（会場：東中洲児童公園集会所）において、「くまがわ・明日の川づくり報告会」を実施しました。

同報告会には、約 40 名の方々にお集まり頂き、球磨川水系河川整備基本方針の内容や小委員会等での審議の状況についてご報告いたしました。

いただいたご意見等並びにご意見等への回答については下記のとおりです。

なお、報告会の時に回答した内容が不十分であったところについては補足しています。

参加者数※

市内	36名
市外	4名

※参加者数は記名者数

住民の方々から頂いた主なご意見・ご質問	ご意見・ご質問への回答
<p>【河川整備基本方針の説明について】</p> <ul style="list-style-type: none"> 基本方針では、具体的な洪水調節施設の説明はできないと聞いているが、堤防強化、引き提、嵩上げ、河床掘削など具体的な治水対策は社会的・環境的な配慮のため技術的に不可能であり、残る具体的な洪水調節施設であるダムだけには触れられないという不思議な報告会である。この報告会は、ダムが無いと八代は危ないという国土交通省の主張を継続するものという感想を持たざるを得ない。 	<ul style="list-style-type: none"> 基本方針は、長期的な河川整備の目標等の基本的な方針について定めたものであり、ダムの整備などの具体の治水対策については、今後、河川整備計画を策定する際に検討していくこととなります。報告会は、基本方針の内容等について地域の方々にご報告するために開催したものです。
<ul style="list-style-type: none"> 小委員会の中で、S40年7月の洪水は流量としては最大で、約1万4千戸が被害を受け、萩原堤防も決壊をしたと説明しているが、このうち川辺川・球磨川の洪水調節施設で救える被害はどれくらいか。数字で具体的に示して欲しい。 	<ul style="list-style-type: none"> 基本方針は、長期的な河川整備の目標等の基本的な方針について定めたものであり、ダムなどの具体の施設については、今後、河川整備計画を策定する際に検討していくこととなります。ダムによる効果についてもその際に提示していくことになるかと思えます。
<ul style="list-style-type: none"> S40年の豊国旅館の流出は、私的に付け足された石垣の流出であり、堤防の決壊したものではないことが明らかになっている。小委員会に提出された萩原堤防決壊の資料が、豊国旅館の例を指すものならば、さかのぼって具体的な方法で訂正して欲しい。また、その方法を教えて欲しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ご指摘のスライドについては、萩原堤防の危険性を示すためにお示ししたのではなく、昭和40年7月洪水の被害の一例をご紹介しているものです。資料において誤解を招くような表現があったようでしたら、今後、注意していきたいと考えています。
<ul style="list-style-type: none"> 新しい氾濫想定区域をできるだけ多くの人に見てもらいたいといいながら、なぜ、これまでの報告会で、地名も水深もない八代市浸水想定図を提示して説明してきたのか。 	<ul style="list-style-type: none"> 平成16年に作成した浸水想定区域図は、大判図面の4枚構成となっており、例えば地域ごとの浸水の深さをスライドでお示しすることが困難であるため、浸水範囲のみをお示ししたところです。浸水想定区域図は、閲覧及びホームページで公表しています。また、希望者には住まわれている地域の部分の浸水想定区域図のコピーをお渡ししています。
<ul style="list-style-type: none"> 資料のP6に河川環境意識の啓蒙のためにも、ダムがたくさん書いてあるが、砂防ダムはどうなっているのか地図で示して欲しい。 	<ul style="list-style-type: none"> 流域内の砂防及び治山施設は、国土交通省のみならず、県砂防部局、林野部局が所管しているものもあります。古くは大正時代に造られたものもあり、河川管理者としては、全ての施設の位置を把握していません。
<p>【球磨川の治水対策について】</p>	

- ・萩原堤防について、20～25年という長い時間をかけて深掘れ対策をした後に堤防の厚みを増す計画ということは、この報告会に参加した住民が生きている間に萩原堤防の強化が間に合わないことを思い知らされたらう。H17年完成予定の強化堤防はダム計画の障害となるために白紙となった。真に私たちが望む緩やかな勾配で川の前面に張り出し、住民の親水効果を実現する浸透に強い堤防を一日も早く実現して欲しい。
- ・今年的美里町の洪水後に見たが、水が道路を越してえぐれており相当な被害があった。球磨川も大量の水が出たときに（堤防が）えぐれないように工事をしてもらえるのか。
- ・支流の前川に面している町内は、海の関係もあると思うが、高潮時期と洪水が一緒になったときの水量は検討しているのか。
- ・世界的に地球温暖化で海面が上がってきている。例えば100年先では10cm、20cm、あるいは50cm、1mと海面が高くなった場合の高潮と洪水の関係が危惧されるが、こうしたことも十分検討されているのか。
- ・荒瀬ダムを撤去すると聞いている。荒瀬ダムが洪水調節をしていると思うが、その辺のところをどのように検討しているのか。
- ・フロンティア堤防は、全国で前例がないというような発言があったが、全国4河川11箇所ですべて実際に施工されている。
- ・八代市の萩原地区の堤防は、洪水時に水当たりが強い箇所であり、現在、堤防の脚元が深掘れしていることから、大きな石や砂利を埋める工事を実施しています。さらに、法令で必要とされる堤防の厚みが足りない箇所について堤防断面を厚くする工事を行う必要があると考えています。球磨川における河川内での工事は、出水期やアユの遡上・下降時期を考慮し、1年間で約4ヶ月だけしか実施できません。このような制約がありますが、河川管理者としては、1日も早く工事を完成できるように引き続き努力していきたいと考えており、併せて親水性の高い水辺となるよう配慮していきたいと考えています。
- ・河川管理者としてできることは、少しでも洪水時の河川の水位を下げることでと考えています。しかしながら、ハード整備にはどうしても時間がかかってしまいます。一昨年の7月洪水の時、国道219号が洪水で浸水し通れなくなり、車が何台も立ち往生したことがありました。当面は、ハード対策と並行しソフト対策として、河川水位と道路浸水との関係を調査し、河川の水位予測と合わせることで、例えば、国道219号が浸水する前に、浸水箇所の手前の迂回できるようなどで通行止めをするなどといった対応を、道路管理者と連携してできないか検討しているところです。
- ・高潮については、昭和34年の伊勢湾台風級の台風が、九州本島の西側の進路を通った場合に想定される高潮、洪水については、100年に1回の大雨が降った時の洪水時に横石（八代市）地点で上流部で洪水調節が行われた後の流量（計画高水流量）7,800m³/sに相当する流量が流れてきた場合を想定し、高潮と洪水両方を満足するように河口部付近の堤防の高さ等を決めているところです。洪水や高潮については、これらの計画を上回る規模の事象が発生することはあり得るものと考えており、このため、いざという時の避難体制の整備など、ソフト面での対策について、地元八代市等と連携して取り組むことが重要と考えています。
- ・基本方針については、今後地球温暖化による気候変動や森林の保水力等に関する新たな知見により、基本高水流量算出の前提条件が著しく変化することが明らかになった場合には、必要に応じて見直すこととしています。なお、この旨基本方針の本文にも明記しているところです。
- ・荒瀬ダムは県の企業局が管理する発電専用ダムです。荒瀬ダムには洪水時に水を貯め、下流に安全な流量を流すといった洪水調節の機能はありません。このため、仮に荒瀬ダムが撤去された場合でも、下流の治水計画には影響はありません。
- ・いわゆるフロンティア堤防については、洪水が堤防を越えても、すぐには決壊しにくい堤防を目指し、全国4箇所ですべて試験的に施工され、平成10年頃に球磨川でも検討されました。しかしながら、

	<p>フロンティア堤防には課題が多く、技術的に確立していないことから、全国的に整備を見送った経緯があります。これから研究が進み、技術的に確立されれば、将来的に検討することがあるかもしれませんが、現在で実施することは難しいと考えています。</p>
<p>【球磨川の環境について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ H6年頃はかなり魚が泳いでおり、仕事帰りの魚釣りを楽しみにしていた。今は魚がいない。これを早く回復することは可能なのか。努力はしているのか。また、ヘドロの問題について説明して欲しい。 <hr/> <ul style="list-style-type: none"> ・ 河川敷などにゴミがかなり落ちている。 <hr/> <ul style="list-style-type: none"> ・ 今、全国的に高齢者のスポーツということでターゲットバードゴルフが普及している。国土交通省で常設コースを造ってもらえないか。 <hr/> <ul style="list-style-type: none"> ・ 魚がつかれるように努力するとの説明が国土交通省からあったが、いつ頃実現できるのか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 昔の川のように戻すことは、なかなか難しいことだと思えますが、少しでも昔の川の姿に近づけるように、今後とも関係機関及び流域住民の方々と連携して環境の改善に努めてまいりたいと考えておりますのでご協力をお願いいたします。 また、球磨川河口付近では、昔に比べ干潟が減少しているようです。また、昔、球磨川河口にアマモという海草が生えていましたが、現在は減少している状況にあります。アマモは魚類の産卵場となるなど良好な自然環境の創出にも繋がることから、国土交通省では、地元漁協と協力して試験的にアマモの再生に取り組んでいるところです。 ・ 近年連続して発生した洪水により、河川敷の樹木などにゴミがひっかかっている状況が所々に見られます。地元の皆さんの手に負えないようなゴミ等ありましたら、事務所か出張所までご相談いただければ、できる限り対応していきたいと思えます。 ・ 球磨川の河川敷にある球磨川河川敷スポーツ公園については、多くの方々に利用いただいております。スポーツ公園については、八代市が占用して公園として管理されています。いただいたご意見は、管理している八代市にお伝えしました。 ・ 昔の川のように戻すことは、なかなか難しいことだと思えますが、少しでも昔の川の姿に近づけるように、今後とも関係機関及び流域住民の方々と連携して環境の改善に努めてまいりたいと考えておりますのでご協力をお願いいたします。 一例ですが、遙拝堰下流ではアユ等の産卵場となっていた良好な瀬が消失しかかっていますので、産卵場となる瀬の再生に努めていきたいと考えています。そのため、漁協や熊本県の水産部局等と連携を進めつつあるところです。 なお、遙拝堰の産卵場の再生の取り組みについては、平成19年度から検討を始めたものであり、今しばらくお時間をいただきたいと考えています。
<p>【その他】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 国道3号線の前川の白鷺橋の下はガードになっているが、朝夕の通勤時は車の通行が多い。まっすぐ行ければいいが、カーブしているので、土地の買収なりして車の通行をスムーズにして欲しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 白鷺橋の下の道路は、国土交通省の道路部局、八代市が管理していることから、ご意見は双方にお伝えしました。

※ ご発言をそのまま掲載するのではなく、趣旨を変えない程度にまとめさせて頂いています。

※ 誹謗中傷するような発言については掲載しておりません。